



■市役所1階ロビーにある庁内案内看板。市が行っている仕事の内容や各担当課の配置などを分かりやすく表示しています。来庁した際にはご覧ください。

都留市役所の「見える化」

「見える化」採用デザイン

現在、市の中心市街地となっている谷村地区は、戦国時代より県東部の政治経済の中心地として発展し、江戸時代には秋元泰朝・富朝・喬知の3代、72年間に渡り、城下町として発展しました。このような歴史的背景を活かすため、瓦となまこ壁のデザインを取り入れました。

この「見える化」を行政にも取り入れるため、平成20年度より若手職員が中心となり研究会を設置し、さまざまな観点から調査・研究を行いました。その成果として、次の4つがあります。

この成果に対して、市民の皆さんのご意見やご要望などをお聞かせください。市民の皆さんのご意見やご要望を活かしながら、さらに分かりやすく利用しやすい市役所となるように、これからも行政の「見える化」を推進していきます。

問合先 政策形成課 企画担当

「見える化」とは、現場における目に見えない活動を、目に見える形にしようとする取り組み。トップ企業が業務改革の手法として取り入れていきます。組織の「見えない」・「見せたくない」部分を「見せる」ことにより、現場からの改善を図り、現場における問題点の早期発見や効率化、改善に役立てることができま



「見える化」とは



都留市役所
「見える化」
取り組み①

スマートシティ都留2008 (都留市自治体経営白書)

「スマートシティ都留2008(自治体経営白書)」には、市の計画(長期総合計画や8つのアクションプラン)、財政状況、行財政改革の取り組み状況、さらには今後の課題や方向性などを総括的に掲載しています。市の施策や考え方、現状や実態、問題点についても包み隠さず明らかにすることで、新しいまちづくりに向け、市民の皆さんと行政が協働するために欠くことのできない情報を共有することを目的に作成しました。なお、この白書は県内自治体では最も早く、平成20年から発行しています。



■「スマートシティ都留2008」